

報告事項ク

闘病記文庫開設10周年記念講演会等の実施について

闘病記文庫開設10周年記念講演会等の実施について、別紙のとおり報告します。

平成28年8月10日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

闘病記文庫開設10周年記念講演会等の実施について

図 書 館

県民の課題解決支援サービスとして平成18年に医療・健康情報サービスを開始し、「闘病記文庫」を開設し、今年で10周年となる。これを記念し、国民の2人に1人が罹る可能性があるといわれる国民病「がん」をテーマに、自分らしく過ごせるように心と体を援助する緩和ケアについての講演会を、病院図書室等と連携して下記1のとおり開催した。

あわせて闘病記文庫コーナーを下記2のとおりリニューアルし、がん情報の提供を充実させた。

1 闘病記文庫開設10周年記念講演会の開催

- (1) 日時 平成28年7月17日(日) 午後1時半から3時半まで
- (2) 会場 鳥取県立図書館 大研修室
- (3) 共催・協力 鳥取市立病院、県立中央病院、県立厚生病院、鳥取大学附属図書館、県健康政策課
- (4) 参加者 講演会91名 相談会5名
- (5) 内容

- ① 講演「緩和ケアって何だろう」 講師：鳥取生協病院 緩和ケア科部長 大呂昭太郎 氏
緩和ケアとはどのようなものなのか、なぜ必要なのか、実際の症例を交え説明していただいた。



- ② 報告「みなさまの不安を和らげ、心を支えたい！こんなときこそ図書館へ」

報告者：県立図書館資料課司書 佐伯真由佳

当館の「医療・健康情報サービス」の取組、闘病記文庫の紹介、県立中央病院、県立厚生病院、鳥取市立病院及び鳥取大学医学部附属図書館のそれぞれの取組と連携について報告した。



- ③ がんの無料相談会 相談担当：鳥取県がん診療連携協議会 藤松義人 氏、山口恵 氏、山根綾香 氏
講演会後、がんで療養中の方やその家族、がんが心配な方、がんについて知りたい方などに、検診から治療、緩和ケア、医療費についてなど、幅広く相談していただける相談会を開催した。



(6) 参加した方の感想

- ・実際に現場で働いておられる先生から、実際の患者さんの声を紹介していただき、緩和ケアについて具体的に知ることができた。
- ・緩和ケアは終末期に行うというイメージだったが、そうではない。医療全体に関わるものと思った。
- ・自分が闘病中感じていた気持ちがスピリチュアルペインなのかと思うと、納得がいく気がして、少し気持ちが楽になった。
- ・自分自身ががんと言われて1ヶ月あまりで大変タイムリーな内容だった。幸い手術も治療も可能な段階なので「時間」がある。図書館を大いに利用して乗り切ります。
- ・県内の病院図書室について知ることができたので、通院のついでに利用してみようと思う。

2 闘病記文庫のリニューアル (平成28年7月15日)

がんの闘病記を増やし、「緩和ケア」、「治療法」、「治療後の生活」、「就労・復職」など、様々な課題がある方々に役立つ本やパンフレットを課題別に見やすく配架し、がんに関する情報を充実させた。

【主な内容】

- ・がんと診断されたとき…治療法、緩和ケア、お金
- ・闘病中の生活…食事、スキンケア、医療用ウィッグ
- ・治療後のセカンドライフのために…復職、復学
- ・ご家族の方へ…家族ががんになった時に支えとなる本

